

科目名	幼児と環境			担当教員	松本 信吾	
単位	1単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED2CSR103
期待される学修成果	教科教育 態度					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験	教諭（講師を含む）					
実務経験を生かした授業内容	保育現場の経験を活かし、幼児と環境とのかかわりの実際を具体的に示しながら、その背景にある理論についての解説を加える。					
到達目標及びテーマ	領域「環境」の学問的な背景や基盤となる考え方を理解する。幼児期に環境にかかわりながら遊びや生活することの意味や意義について学ぶことを通して、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境とのかかわりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身につける。					
授業の概要	幼児は、身近な様々な環境とのかかわりを通して学び、育っていく。そこで、幼児を取り巻く自然環境や社会環境等の意味を教科書を通して学ぶと共に、実際の保育現場への訪問、身近な自然環境とのかかわり、また、映像などの視聴覚教材を用いることで、幼児の姿や自らの実感を通して、その意味を考察する。					

授業計画	
第1回	領域「環境」の意義について理解する
第2回	現代社会の幼児を取り巻く環境と、現代的課題について理解する
第3回	環境とのかかわりに関する幼児の発達の見方・捉え方を理解する)
第4回	好奇心や探究心をもつ環境について
第5回	思考力の芽生えを培う環境について
第6回	身の回りのことを自分のこととして捉える態度を養う環境について
第7回	環境に心を開く ゲストティーチャーによる野外活動
第8回	身近な自然とどうかかわっているか 1
第9回	身近な自然とどうかかわっているか 2 その援助について
第10回	身近な物とどうかかわっているか 1 幼児の実態について
第11回	身近な物とどうかかわっているか 2 その援助について
第12回	文字や記号とどうかかわっているか
第13回	保育現場における環境とのかかわり 1 幼児の実態について
第14回	保育現場における環境とのかかわり 2 その援助について
第15回	「幼児と環境」を通して学んだことの振り返りとまとめ

事前学修	0.5時間	事前にアサインメントを示すので、事前に調査・収集を行うこと。
事後学修	0.5時間	ワークシートやアサインメントに、その日の学修のポイントを明記すること。
フィードバックの方法	授業の冒頭で毎回、それまでの授業内容についての復習を行って発言してもらい、知識の確認と定着を図る。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	幼児にとって環境と関わることの意義について、自分の考えをもち、それを論述しているかを評価する。
上記以外の試験・平常点評価	60%	演習やグループワークにおける意欲・関心・態度を評価

定期試験		0%		実施しない	
補足事項					
教科書					
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
新しい保育講座⑨ 保育内容「環境」	久保健太・高嶋景子・宮里暁美(編)	ミネルヴァ書房	978-4623090396	なし	
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4577814475	なし	
参考資料	『保育所保育指針』平成29年4月、 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』平成29年4月など				